

こんにちは 家畜保健衛生所です

令和2年10月



BVDのスクリーニング検査のお知らせ



安全で安心できる牛乳を消費者へ届けるため、バルク乳のスクリーニング検査を実施しましょう！

○検査内容：牛ウイルス性下痢(BVD)検査

「搾乳牛の中にウイルスを持った牛がいるか」を調べる検査です

○採材時期：11～12月にかけて(日程調整のご連絡を後日差し上げます)

○検査材料：バルク乳(約100ml)

○検査費用：無料



導入牛についても検査を行い、農場へのウイルスの侵入を防ぎましょう！

* BVD(牛ウイルス性下痢)については後述参照

牛ウイルス性下痢（BVD）と 持続感染牛（PI牛）

どのような病気か

BVDウイルスの感染により、発熱、下痢、呼吸器症状などを引き起こします。一般的に一過性で回復することが多いですが、致死的な粘膜病を発症することもあります。また、妊娠牛が感染すると異常産や持続感染牛（PI牛）の原因となります。

近年、全国的に増加傾向にあり、新たにガイドラインが策定されました。

持続感染牛(PI牛)

妊娠牛（胎齢約18～125日）が感染すると、その胎子はPI牛として生まれることがあります。PI牛は、生涯に渡ってウイルスを保有し、鼻汁、糞尿、乳汁などにウイルスを排出し続けます。PI牛は、一見健康に見える場合でもウイルスを排出しており、感染源になります。また、PI牛は致死的な粘膜病を発症する危険性が高いです。

予防対策や検査などご不明な点は、家畜保健衛生所へご相談ください。

家畜保健衛生所業務第一課

0743-59-1700

家畜保健衛生所業務第二課

0745-62-2440

